

[科目区分]：共通科目 [授業科目名]：コース初歩学習

## 平成24年度「授業評価・授業研究報告」

学校教育講座 梶原郁郎

### (1) 授業の目的

コース初歩学習（一年次後期：受講学生数12名）は学校教育講座の教員二名で担当し、後半を私は担当した。まずこの授業の目的を、教育学部「教職課程のディプロマ・ポリシー」との関係において明示しておきたい。

- (1) 教科・教職に関する幅広い基礎的知識と、得意分野の専門的知識を有している。
- (2) 学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。
- (3) 児童・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
- (4) 実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。
- (5) 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

新学習指導要領は知識の活用を謳っているが、学習者が知識を活用できるように保障するためには、教師が知識を理解・活用できていることが前提となる。この課題を前に私が本授業の教育内容・方法として次の点を意識した。知識の暗記に忙殺されてきた学生は、知識の活用とはどういうことが分からないのではないかという点を踏まえて、学生に学校時代の学びの姿（暗記主義の学習）を振り返らせ、何よりもまず、知識の理解・活用を経験させる。この点を授業の目的とすることで、上述のDPの(1)の「教科・教職に関する幅広い基礎的知識」を具体的に保障しようと意図した。このDP(1)に加えて本授業ではDP(3)についても取り組んだが、この点については以下に詳述する。DP(3)についても、教師自身の知識理解が前提となることが分かるように、本授業を計画して進めた。

### (2) 授業の内容・工夫・成果

この授業では、分かるということはどういうことかを学生自身に経験させるために、次の問題を問うことから始めた。

- [問]  $2 \times 2 = 4$ 、 $2 + 2 = 4$ 、両者の違いが分かるように、それぞれ具体的事例を挙げよ。
- [問]  $0 \times 2 = 0$ 、この具体的事例を挙げよ。
- [問]  $2 \times 0 = 0$ 、この具体的事例を挙げよ。
- [問]  $y = 0$ 、この具体的事例を挙げよ。
- [問] 分数のわり算で、わる数を逆数にする理由を、この具体的事例を挙げて説明せよ。

これらの問題は、分かっていたいなかった自分を学生に認識させ、そこから分かる授業に向かわせるための問題である。

例えば「 $0 \times 2 = 0$ 」の具体的事例をひとつも持たない場合には、その知識を活用して他の事例を提示できないという点を踏まえて、数学教育協議会の業績を踏まえて分かりやすい事例を提示するという教育内容・方法を採用した。その提示の後には、学生もその他の事例を出すことができるようになった。そうした経験を作らせた後、そのように事例を出すという思考が、「 $0 \times 2 = 0$ 」の知識を活用できるようになったということであると説明した。そうした経験なしに知識の活用を説明しても、授業内容は学生に「知識の活用とは……ことをいうそうだ」という次元でしか伝達されない。この事態を避けるために、以上の教育的配慮の下で授業を進めた。

以上のように学生自身に知識を学び直させた後、私は、DP(3)の「児童・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる」を取り上げた。授業者自身の知識理解から離れたところに、教材の工夫や教育方法の問題があると私たちは捉えがちだが、その常識が錯覚であることは、一度立ち止まって考えてみれば、当然に分かることである。その常識がある限り、教材の工夫は知的作業に

はならないので、学び直しを教材作成に先行させるという手順をこの授業では採った。

さらにこの授業では、「 $0 \times 2 = 0$ 」の授業プランを次の発問系列で作成した。これは、かけ算が分かることの基礎として、かけられる数の回りのモノモノから見付ける作業を発問にした授業プランである。

- ・「2」（1あたり2のモノ）を見つける・探す
- ・「3」（1あたり2のモノ）を見つける・探す
- ・「8」（1あたり2のモノ）を見つける・探す
- ・「0」（1あたり2のモノ）を見つける・探す

この実践を公立小学校で行わせていただき、児童の姿として次の点を学生に見せることも行った。(1)「2」「3」「8」を児童は見付けることができるか、どのような独自の事例を見つけるか、(2)「0」の事例をどのくらい出すことができるか。これによって、この授業プランの効果を学生に実際に見せることを、この授業参観の目的として取り組ませた。

### (3) 授業の達成度

以上の手順と内容でこの授業を行ったが、この授業に対するアンケート結果は以下の通りである（学生10名）。

- (1) この授業は、みなさんが将来授業を作っていく上で参考になりましたか。

- [8名] 非常に参考になった。
- [2名] ほどほど参考になった。
- [0名] あまり参考にならなかった。
- [0名] ほとんど参考にならなかった。

- (2) この授業では、知識を児童が理解する授業（分かる授業）について、具体的に説明してきました。分かる授業とは具体的にどのようなものか分かりましたか。

- [7名] 非常になった。
- [3名] ほどほどになった。
- [0名] あまりならなかった。
- [0名] ほとんどならなかった。

この結果はこの授業のある程度の成果を示していると思われるが、これは、「0」の事例を学生がなかなか出せないことを自己認識させ

た上で、授業内容を説明してさらに実践を参観させるというかたちで取り組んだことが、ひとつの要因であると思われる。

次に、「(3) この授業で学ぶことができたことを、いくつか書いて下さい」に対する学生の回答をいくつか例示する。

- ・児童に教科を教えるにおいて大切なことは、事前に教師がそのことについて深く理解しておかなければならないということである。そして深く理解するには、今までに学んできたことの学び直しをすることが重要であると知った。
- ・実際に授業見学をして、授業の進め方について少し知ることができました。「分かる授業」には、講師の学び直しが必要であると感じました。

このように授業力の向上については、授業の方法構成をどうするかという問題の前に、授業者自身の授業内容理解が前提となることをこれらの学生は理解できたかと思われる。

またレポートの中には、分かる授業なるものについて次の指摘があった。

- 今まで「教師は「子どもたちに分かりやすい授業」をしなければならない」ということを大学の授業で学ぶことがあった。しかし実際「分かる授業」とは普通の授業とは何が違うのか、具体的には分からなかった。

この学生は続けて、今回の授業構想と実践を勉強して「かけ算の「本質的な部分の理解」ができていないか否かが「分かる授業」になっているかの境界線であることを感じる事ができた」と記している。分かる授業とは何かを説明するのみならず、分かる授業を見せることが、学生の学びを直接導くことが、以上の感想に示されていると思われる。

こうした指摘を前に、分かる授業なるものについて具体的にその実践を見せること、そしてその実践までの構想過程を明示すること、こうした点を講義・演習の内容の中に踏まえていく必要を認識させられる。これは今後引き続き課題となるが、DP (1) (3) (4) を学生に保障していくための必要事項であり、教師の専門職性を踏まえると、DP (5) の保障についてはそれらを前提として考えていく必要があると思われる。以上は今回の授業を踏まえての今後の課題である。